

「大きなえはがき」

2月9日(木)3時間目 3. 4年の道徳の授業は校長先生。

ストーリーは広子が、なかよしの正子から、はがきをもらいました。うれしかったけど、でも大きいので、70円が不足。そのことを「伝えない」でおくか、それとも「伝える」か。

子どもの机の上には、考える、迷う、その理由を考えている、広子の頭(心)の中身が、「青」と「赤」の割合で見えるツールがありました。

授業をのぞいた時ちょうど、「本当の友だちとは？」と、最後の質問をしているときでした。

子どもの頭(心)の中の、「青」と「赤」がぷくぷく煮立っていたのか…先生の問いかけが、なべのふたを開けたかのように、噴き出していました。

「間違いを教えてくれる」「気遣ってくれる」「けんかもするけど、仲直りする」「本当のことを伝える」「一緒にやり遂げる」「一緒に遊ぶ」……

実際に子どもが経験したことを、次々にだしていました。

それは迷いながらだったこと、その時勇気をだしたこと、心細くなっていたとき、ひとりにしないでいてくれた友だちのことなど、校舎の中でのワンシーンのことでした。

先生は板書をしながら、発表者へ「あの時がんばって言ったもんね。」「言いにくかっただろうけど、それでよかったんだよ。」「その人がいてよかったね。」と返しながら。

最後に、学習シートに、実際にあつた経験と、授業の感想を書いていました。

授業が終わった校長先生が、職員室で学習シートに赤ペンを入れながら、「これは道徳の教材で、効果のあつたNo.1」だと話してくれました。

毎日一緒に過ごす中で、いろんなトラブルが起こります。でも、今ここで学んでおくことで「これからも、言いにくいことも言うよ、本当の友だちになりたいからね！」と確認しておけるな～を思いました。

校長先生が話すときも、友だちが発表する時も、子どもたちは必ずカラダの正面を向けて、目を見て聴いていました。いつも通りに。



